

# Panasonic

## PCソフトウェアパッケージ 取扱説明書(インストールガイド)

品番 WV-AS710

はじめに

作業概要

Red Hat Linuxの  
インストール

録画データ用ディス  
ク領域の確保

インストール・起動

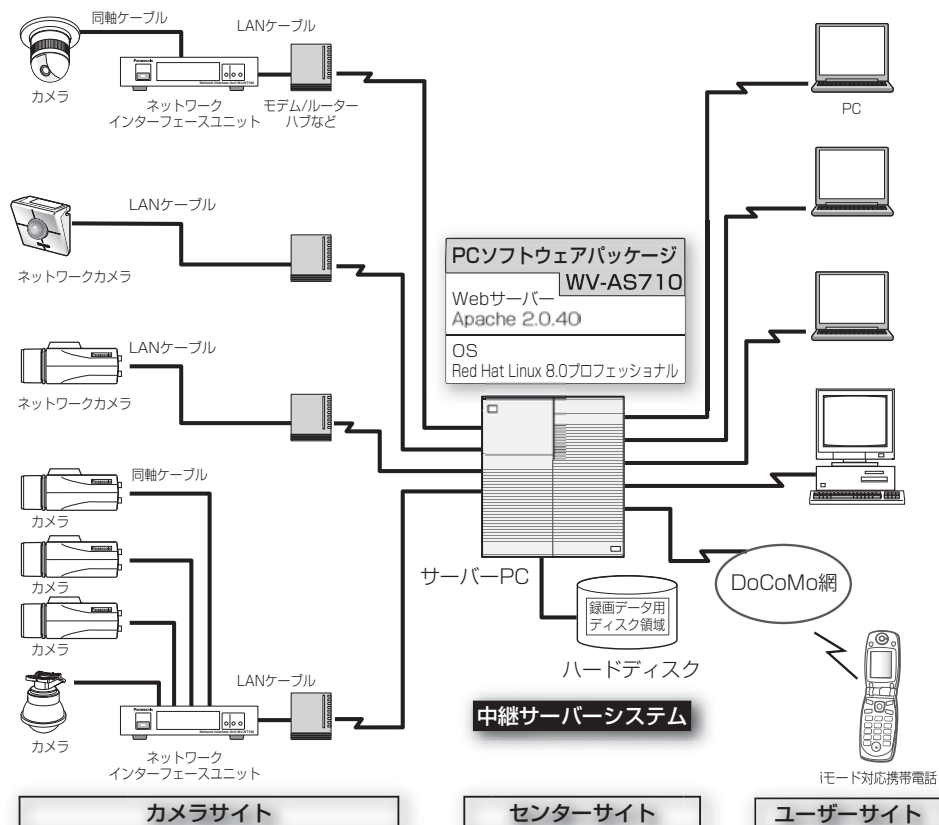
このたびはPCソフトウェアパッケージをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。その後保存し、必要なときにお読みください。
- PCソフトウェアパッケージをインストールする前に、ソフトウェア使用許諾契約書をよくお読みになり、同意していただける場合にのみCD-ROMパッケージを開封し、インストール作業を行ってください。

# はじめに

## 商品概要

PCソフトウェアパッケージ(WV-AS710: 以下、本ソフトウェアと呼ぶ)は、遠隔地にあるカメラの画像をインターネット/イントラネットなどのIPネットワーク経由で、パーソナルコンピュータ(以下、PC)やiモード対応携帯電話に配信するためのソフトウェアです。本ソフトウェアは、Red Hat Linux 8.0プロフェッショナルを搭載したサーバーにインストールして使用します。本ソフトウェアをインストールしたサーバーを中継サーバーシステムと呼びます。ユーザーは、配信された画像をPCのWebブラウザや携帯電話のiモードで見ることができます。



## 機能概要

### 画像配信

中継サーバーシステムを導入すると、Webページ閲覧用のソフトウェアで、カメラの画像をJPEGまたはMPEG-4で見ることができます。また、複数のユーザーが同時に同じカメラの画像を見ることができます。各ユーザーが異なるカメラの画像を見ることがもできます。

### 録画

カメラから中継サーバーシステムに配信される画像をハードディスクに録画できます。

### アラーム発生時の画像を中継サーバーシステムで録画する

カメラからのアラーム信号を中継サーバーシステムが受信したとき、サーバー上のハードディスクにアラーム発生時の画像を録画することができます。同時に、アラーム発生状況をPCまたはiモード対応携帯電話にメールで通知することができます。メールには、アラーム発生時の画像を見るためのアドレスが書かれています。

**注:** 中継サーバーシステムは、カメラの独自アラーム通知で使用しているプロトコル(独自プロトコル)で送信されたアラーム信号のみ受信することができます。

### Webブラウザによるサーバーの管理

中継サーバーシステムの管理(設定)は、インターネットに接続されたPCにインストールされているWebブラウザで行うことができます(PCに、特別なソフトウェアをインストールする必要はありません)。

## 動作環境

本ソフトウェアは以下のシステム環境を持つPCにインストールできます。

推奨CPU: Intel® Pentium® III 1.4GHz以上で動作するPC

メモリ: 512MB以上

LANカード: 100BASE-TX/1000BASE-T/TX/SX対応コントローラー  
カメラ側および配信側に1基ずつ必須。さらに、メンテナンス用

# はじめに

に1基インストールすることを推奨。

- OS: Red Hat Linux 8.0プロフェッショナル
- CD-ROMドライブ 本ソフトウェアのインストール時に必要
- USBポート: ハードウェアキー取り付けのために必要(USBハブも使用可能)
- ハードディスク: 2GB以上の空き容量が必要(録画データ用ディスク領域は含まず)
- コア・コンポーネント: WebサーバーとしてApache HTTP Server 2.0.40が必要。  
メール機能を使用する場合、メールサーバーが必要。

## 付属品をご確認ください

CD-ROM*	1
インストールガイド(本書)	1
ハードウェアキー	1

※: CD-ROMには、PCソフトウェアパッケージのインストールプログラムと取扱説明書(PDF)、Readme.txtファイルが納められています。インストールする前に、Readme.txtを必ずお読みください。

## 商標および登録商標について

- ・ 米国におけるLinuxの名称は、Linus Torvalds氏の登録商標です。
- ・ RED HATは米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の登録商標です。
- ・ Adobe、Adobeロゴ、およびAcrobatは、米国およびその他の国におけるAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標または登録商標です。
- ・ iモード、iアプリはNTT ドコモの商標です。
- ・ その他の社名または商品名は各社の商標または登録商標です。
- ・ 本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、並びに輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

## 本書について

本書は、Red Hat Linux 8.0プロフェッショナルに本ソフトウェアをインストールする方法について説明しています。本ソフトウェアの設定方法および本ソフトウェアにアクセスして画像を見る方法は、CD-ROM内の取扱説明書(PDF)をお読みください。

なお、CD-ROM内の取扱説明書をお読みになるためには、Adobe® Acrobat® Readerが必要です。Adobe® Acrobat® Readerは、アドビシステムズ社のホームページからダウンロードすることができます。

## 対象読者

本書はRed Hat LinuxプロフェッショナルおよびApache HTTP Serverに関する知識がある方で、かつ基幹サーバーを構築した経験のある人を対象に説明しています。

## 用語について

本書で使用する用語について説明します。

**中継サーバーシステム:** 本ソフトウェアがインストールされているサーバーのことです。

**録画データ用ディスク領域:** 中継サーバーシステムにマウントされているハードディスクに確保されている、録画専用のディスク領域(/S3\_DATAxxの名前のパーティションまたはディレクトリ)

**ディスク領域:** 録画するためには、録画データ用ディスク領域からどれくらいそのカメラの録画での録画を許可するかを割り当てる必要があります。カメラごとに割り当てた録画データ用ディスク領域の容量をディスク領域と呼びます。

**アラーム画像:** アラームに連動して撮影された画像をアラーム画像と呼びます。

**ボタンの表記について:** 本書はWebページ上のボタンを[ ]で表記しています。

**Red Hat Linux:** Red Hat Linux 8.0 プロフェッショナルをRed Hat Linuxと呼びます。

**タイプ1:** 本ソフトウェアをシステムタイプ1で使用する場合に、操作または設定できる項目です。

# 作業概要

中継サーバーシステムのインストールは下記手順で行います。

注 Red Hat Linuxへの本ソフトウェアのインストール、録画データ用ディスク領域の確保( **タイプ1** )、およびアンインストールは、root権限で行う必要があります。

1. システムタイプの決定
2. ディレクトリ構成の確認
3. Red Hat Linuxのインストール
4. 録画データ用ディスク領域の確保 **タイプ1**
5. 本ソフトウェアのインストール(インストールスクリプトの実行)
6. 中継サーバーシステムの起動
7. 環境設定

運用を始める前に、管理者用ページにアクセスし、中継サーバーシステムの動作環境を設定します。詳しくは、CD-ROM内の取扱説明書(PDF)をお読みください。

## 8. 運用開始

動作環境設定後、中継サーバーシステムを再起動してください。再起動後から運用を開始できます。

## システムタイプの決定

中継サーバーシステムには、下表に示す2つのタイプがあります。使用するタイプによって必要な作業が異なります。

表 システムタイプ

タイプ	概要
システムタイプ1	カメラの画像のライブ配信および録画を行うことができます(サーバー上に録画データ用ディスク領域を確保する必要があります)。録画した画像は検索して再生することができます。また、再生時に、PCのハードディスクにダウンロードすることもできます。
システムタイプ2	ライブ配信のみ行う場合のモードです。録画・再生・検索・アラーム機能は使用できません。

**システムタイプについて:** システムタイプは運用開始後、変更することができます。ただし、システムタイプ2からシステムタイプ1に変更する場合は、変更する前に、録画データ用ディスク領域を忘れずに確保してください。

下表の条件をすべて満たすように、システム設計を行ってください。

項目		タイプ1	タイプ2
カメラサイト	最大カメラ数	64台	128台* <sup>1</sup>
	最大合計ビットレート	15Mbps	30Mbps
	最大合計フレームレート	200fps	200fps
ユーザーサイト(ライブ)	最大同時アクセス数	100	200
	最大合計ビットレート	30Mbps	30Mbps
	最大合計フレームレート	200fps	200fps
ユーザーサイト(再生)	最大同時アクセス数	64	—
	最大合計ビットレート	15Mbps	—
	最大合計フレームレート	200fps	—
ユーザーサイト (ライブ+再生)* <sup>2</sup>	最大同時アクセス数	100	—
	最大合計ビットレート	30Mbps	—
	最大合計フレームレート	200fps	—

※1: 128台のカメラを接続する場合、カメラ1台あたりのビットレートを230kbps以下、フレームレートを1.5fps以下になるようにカメラ側を設定してください。カメラ側の最大フレームレートは以下の値を参考にしてください。ただし、以下の値は被写体によって異なります。また、ネットワークの状況によっては最大フレームレートで画像を取得できない場合があります。

JPEG(QVGA)1ファイルのサイズの目安: 約15KB~約22KB

WJ-NT104の最大フレームレートの目安: 5fps(WJ-NT104の設定: JPEG、1Ch固定モード、帯域制限なし、QVGA)

WV-NM100(MPEG-4)の最大フレームレートの目安: 30fps(WV-NM100の設定: ビットレート256kbps以上、QCIFの場合)

※2: ユーザーサイトで再生が64アクセスある場合、ライブは36アクセスまで可能です。

# 作業概要

## ディレクトリ構成の確認

中継サーバーシステムが使用するディレクトリは下表のとおりです。ディレクトリはRed Hat Linuxまたは本ソフトウェアをインストールすると、自動的に作成されます(録画データ用ディスク領域は除く)。

- 注
- ・HTMLファイルおよびCGIが格納されるディレクトリのパスはお客様の環境に依存します。
  - ・ディレクトリ名は変更しないでください。
  - ・各ディレクトリにインストールされているファイルを削除したり名前を変更したりしないでください。

表 ディレクトリ構成

ディレクトリ名	概要
/usr/local/s3/bin/	中継サーバーシステムの実行ファイルが格納されるディレクトリ インストールスクリプトを実行すると自動的に作成されます。
/usr/local/s3/	中継サーバーシステムの設定ファイルが格納されるディレクトリ インストールスクリプトを実行すると自動的に作成されます。
\$htmlPath/s3/	HTMLファイルが格納されるディレクトリ インストールスクリプトを実行すると自動的に作成されます。
\$\$CGIPath/s3/	管理用のCGIファイル等を格納するディレクトリ インストールスクリプトを実行すると自動的に作成されます。

注:

- ・\$htmlPathはApache HTTP ServerのHTML格納パスです。
- ・\$\$CGIPathはApache HTTP ServerのCGI格納パスです。



ディレクトリ名	概要
/var/run/	プロセスIDファイルを書き込むディレクトリ インストールスクリプトを実行すると自動的に作成されます。
/var/log/s3/	アラームログ、アクセスログなどログファイルを書き込むディレクトリ インストールスクリプトを実行すると自動的に作成されます。
/var/s3/etc/	録画データ用ディスク領域の管理情報が格納されるディレクトリ インストールスクリプトを実行すると自動的に作成されます。
/var/lib/mysql/	データベースが格納されるディレクトリ データベースサーバーが使用します。
/S3_DATAxx/ <b>タイプ1</b>	システムタイプ1で使用する場合に必要(xx: 2けたの10進数(例: S3_DATA00, S3_DATA01など))。本ソフトウェアが録画データ用ディスク領域として使用します。Red Hat Linuxインストール時にパーティションとして確保するか、またはインストール完了後、管理者が手動で確保する必要があります。ディスクは最大16台使用可能です。詳しくは、CD-ROM内の取扱説明書(PDF)をお読みください。

# Red Hat Linuxのインストール

ここでは、Red Hat Linuxをインストールするとき、注意していただきたい項目を説明します。

## 録画データ用ディスク領域について タイプ1

中継サーバーシステムのシステムタイプをシステムタイプ1で使用する場合、録画データ用ディスク領域が必要です。

Red Hat Linuxインストール時に録画データ用ディスク領域を確保する場合、マウントポイント名は、必ず以下の名前にしてください。

**マウントポイント名:** /S3\_DATAxx(xxは2けたの10進数)

詳しくは、CD-ROM内の取扱説明書(PDF)をお読みください。

Red Hat Linuxインストール後、ディレクトリを録画データ用ディスク領域として割り当てる場合、またはRed Hat Linuxインストール後にパーティションを追加する場合も同様に、上記名前で作成してください。

## インストール時の注意事項

Red Hat Linuxインストール時、「パッケージグループの選択」で、すべてのパッケージをインストールすることを推奨します。カスタムインストールの中ですべてを選択するとRed Hat Linuxに含まれるすべてのパッケージをインストールできません。

なお、以下に示すパッケージは本ソフトウェアが動作するために必須ですので、必ずインストールしてください。

- ・GNOMEデスクトップ環境
- ・グラフィカルインターネット
- ・テキストベースのインターネット
- ・サーバー設定ツール
- ・Webサーバー
- ・メールサーバー
- ・DNSサーバー

- 
- ・ SQLデータベースサーバー(必ず「詳細」をクリックし、MYSQLを追加してください)
  - ・ ネットワークサーバー
  - ・ 管理ツール

インストール完了後、以下のアドレスにアクセスし、MYSQLを最新版にアップデートファイルをインストールしてください。

<http://www.redhat.co.jp/support/errata/rh80/>

# 録画データ用ディスク領域の確保

ここでは、Red Hat Linuxインストール後に、録画データ用ディスク領域を確保する方法と、注意事項について説明します。

## 録画データ用ディスク領域について

録画データ用ディスク領域は、本ソフトウェアをシステムタイプ1(録画あり)で使用する場合に必要です。録画データ用ディスク領域を確保することによって、以下の機能が使用可能となります。

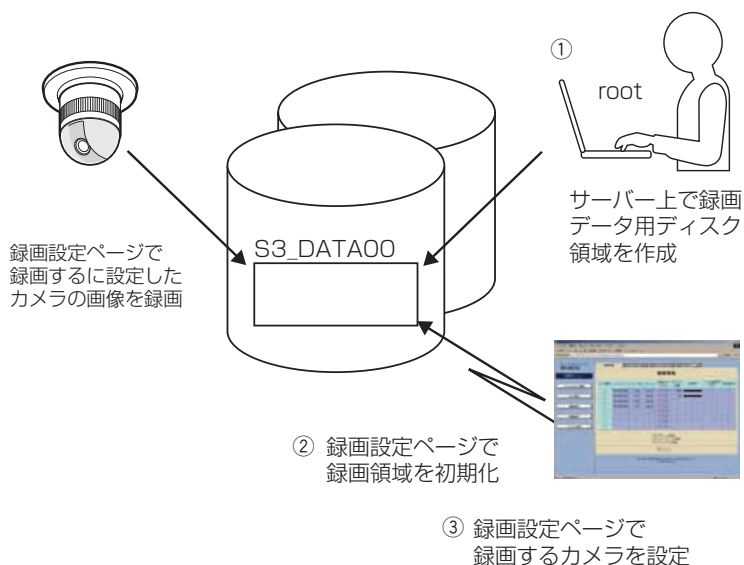
- ・スケジュール録画
- ・アラーム録画
- ・手動録画(マニユアル録画)

注: システムタイプ2(録画なし)で使用する場合、録画データ用ディスク領域を確保する必要はありません。

## 録画データ用ディスク領域確保時の注意

録画データ用ディスク領域を確保する場所によっては、中継サーバーシステムソフトのレスポンスが悪化することがあります。以下のことに注意してください。

- ・録画データ用ディスク領域専用のハードディスクを用意し、新規パーティションを作成して確保することをお勧めします。
- ・録画データ用ディスク領域として使用するパーティションに録画データ以外のデータを保存すると、中継サーバーシステムのレスポンスが悪化します。
- ・録画データ用ディスク領域確保後、管理者用ページでカメラごとに画像を録画する領域を設定してください。



## 録画データ用ディスク領域の確保

録画データ用ディスク領域の確保のしかたには、以下の2つの方法があります。

- ・パーティション全体を録画データ用ディスク領域として使用する
- ・ディレクトリを録画データ用ディスク領域として使用する

### パーティションを新規に作成し、録画データ用ディスク領域を確保する場合

専用のハードディスクを用意する場合、または既存のハードディスクに新規パーティションを作成して録画データ用ディスク領域を確保する場合は、以下の名前でマウントしてください。録画データ用ディスク領域は、Red Hat Linuxインストール時に作成することもできます。

**マウントポイント:** /S3\_DATAxx (xxは2けたの10進数)

**注:** パーティションを新規に作成し、録画データ用ディスク領域として使用する場合、以下のことに注意してください。

- ・録画データ用ディスク領域専用のハードディスクを準備した場合、/S3\_DATAxx以外のパーティションは作成しないでください。また、/S3\_DATAxxパーティシヨ

# 録画データ用ディスク領域の確保

ン内に、いかなるソフトウェアやデータも保存しないでください。

- ・ /S3\_DATAxx以外の名前で作成したパーティションは、中継サーバーシステムで認識できません。
- ・ ファイルシステムは、ext2を選択してください。ext3や、その他のファイルシステムでは、中継サーバーシステムのレスポンスが悪化する場合があります。

## 既存のパーティションに録画データ用ディスク領域を作成する場合

既存のパーティションに、ディレクトリを作成し、作成したディレクトリを録画データ用ディスク領域として使用することができます。この場合、次の手順にしたがってディレクトリを作成し、シンボリックリンクを設定してください。

- 1 既存のパーティションに、`mkdir`コマンドでS3\_DATAxxディレクトリを作成します。

注 S3\_DATAxx以外の名前のディレクトリは中継サーバーシステムで認識できません。

- 2 /S3\_DATAxxディレクトリが呼ばれたとき、手順1で作成したディレクトリに置き換えるシンボリックリンクを設定します。

例: /mnt2パーティションに、S3\_DATA02ディレクトリを作成し、/S3\_DATA02にシンボリックリンクを設定する場合、以下のようにコマンドを入力します。

```
#mkdir /mnt2/S3_DATA02/  
#ln -s /mnt2/S3_DATA02 /
```

# 本ソフトウェアのインストール

ここでは、本ソフトウェアのインストール方法を説明します。

## CD-ROMのマウント

中継サーバーシステムが入っているCD-ROMをセットします。その後、以下のコマンドを入力してマウントし、ディレクトリをCD-ROMに移動します。

```
#mount /mnt/cdrom  
#cd /mnt/cdrom
```

## インストール(アーカイブファイルを展開する)

CD-ROMにあるアーカイブファイルを展開し、必要なファイルをインストールします。

### 1 マウントしたCD-ROM内のインストールスクリプトを起動します。

日本語表示可能なターミナルでインストールする場合

```
#./s3inst_j
```

日本語表示できないターミナルでインストールする場合

```
#./s3inst
```

### 2 環境パラメーターを入力する。

スクリプトを起動すると、中継サーバーシステムは起動に必要な環境パラメーターを問い合わせます。

- ・ Red Hat Linuxのデフォルトパス以外にインストールする場合は、インストール先を入力後、リターンキーを押してください。
- ・ Red Hat Linuxのデフォルトパス(□内の表示)にインストールする場合は、何も入力せずに、リターンキーを押してください。

### 3 管理者用(admin)のパスワードを登録する。

半角6文字以上でパスワードを入力してください。入力した文字列が管理者用ページを表示するためのパスワードとなります。パスワード入力後、リターンキーを押します。パスワードは2回入力します。

# 本ソフトウェアのインストール

入力した内容が一致しない場合、インストールスクリプトは中断されます。中断されたときは、手順1から再実行してください。

## 4 サーバー起動時、中継サーバーシステムの自動起動を行うかどうか入力する。

- ・自動起動を行う場合は、「y」を入力します。「y」を入力すると、自動起動するための記述が/etc/rc.d/rc.localに追加されます。
- ・自動起動を行わない場合は、「n」を入力します。この場合、手動で起動する必要があります。

## 5 入力したパラメーターを確認する。

すべての入力が完了すると、確認メッセージが表示されます。表示された情報でインストールする場合は「y」を入力します。

パラメーターを変更する場合は、「n」を入力します。「n」を入力するとインストールスクリプトは中断されます。中断したときは、手順1から再実行してください。

## 6 録画データ用ディスク領域を確保する。

ハードディスク上に録画データ用ディスク領域が存在しない場合、既存のパーティションに録画データ用ディスク領域の自動作成を行うかどうか、確認メッセージが表示されます。録画データ用ディスク領域を作成する場合は「y」を入力します。システムタイプ2で使用する場合、または後で録画データ用ディスク領域を作成する場合は「n」を入力します。

## CD-ROMのアンマウント

Red Hat Linuxへのインストール終了後、以下のコマンドを入力し、CD-ROMをアンマウントしてください。

```
#cd /  
#umount /mnt/cdrom
```



# 起動のしかた

## ハードウェアキーの取り付け

サーバーPCに、付属のハードウェアキーが取り付けられていないと、本ソフトウェアは起動できません。

本ソフトウェアを起動する前に、サーバーPCのUSBポートに、付属のハードウェアキーを取り付けてください。ハードウェアキーは、サーバーPCに取り付けられているUSBハブに接続して使用することもできます。

## 管理者用ページから起動する

本ソフトウェアインストール後、最初の起動は管理者用ページで実行できます。

管理者用ページは、トップページから[管理者用ページ]をクリックして表示します。

**トップページ:** [http://\(中継サーバーシステムのアドレス\)/s3/Japanese/](http://(中継サーバーシステムのアドレス)/s3/Japanese/)

[管理者用ページ]をクリックすると、認証画面が表示されます。インストール直後は、管理者のユーザー名(admin)とパスワード(インストール時に登録したパスワード)を入力して認証してください。

中継サーバーシステムが停止しているとき、管理者用ページにアクセスすると、サーバーシステム起動確認ページが表示されます。[システム起動...]をクリックして中継サーバーシステムを起動します。



## Red Hat Linuxから起動する

本ソフトウェアをインストールしたディレクトリで s3 を起動します。本ソフトウェアは/usr/local/s3/bin/にインストールされています。

```
#/usr/local/s3/bin/s3
```

# 起動のしかた

注 ・本ソフトウェアインストール時、「Linux起動時に本システムを自動起動する」に設定し、サーバーPCを再起動した場合は、上記操作を行う必要はありません。

・自動起動または管理者機能で再起動を行うと、中継サーバーはバックグラウンドで動作します。このため、ターミナルには何も表示されません。

## 中継サーバーシステムの初期設定概要

インストール直後、中継サーバーシステムは以下のように設定されています。

項目	設定内容
システムタイプ	システムタイプ1
カメラ	1台のみ
カメラのIPアドレス	192.168.0.10
カメラの所属グループ	なし
カメラの接続チャンネル	WJ-NT104の1ch
ディスク領域	未割り当て
動作モード	常時接続モード
ユーザー	管理者グループのユーザ「admin」のみ
パスワード	インストール時に入力したパスワード
スケジュール	なし
アラーム機能	なし

## インストール後の作業概要

中継サーバーシステムを使用する場合は、インストール後以下の作業を行ってください。

- ・メール環境の整備(メール機能使用時は必須)
- ・中継サーバーシステムの環境設定(詳しくは、CD-ROM内の取扱説明書(PDF)をお読みください)

## 終了のしかた

中継サーバーシステムの終了は、管理者用ページの「システム終了・再起動」で行います。「システム終了・再起動」ページで[システム終了]をクリックすると終了します。詳しくは、CD-ROM内の取扱説明書(PDF)をお読みください。

# アンインストール

本ソフトウェアが不要になった場合は、アンインストール用のスクリプトを実行してください。

アンインストールスクリプトを実行すると、インストール時に作成した全ディレクトリが削除されます。

ただし、インストール後に、録画データ用ディスク領域(S3\_DATAxx)として割り当てたパーティションまたはディレクトリは削除されません(内容は削除されます)。rmdirまたはrmコマンドで削除してください。

**注** 本ソフトウェアのアンインストールは、root権限で行う必要があります。

アンインストールスクリプトは、中継サーバーシステムインストール時、以下のディレクトリにインストールされています。

**インストール先ディレクトリ:** /usr/local/s3/bin/uninstall/

インストールスクリプトと同様に、日本語表示版と英語表示版があります。お客様の環境に応じて実行してください。

日本語表示可能なターミナルでアンインストールする場合

```
# cd /usr/local/s3/bin/uninstall/  
# ./s3uninst_j
```

日本語表示できないターミナルでアンインストールする場合

```
# cd /usr/local/s3/bin/uninstall/  
# ./s3uninst
```

## 便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

お買い上げ日	年	月	日	品番	WV-AS710
販売店名	☎ ( ) -				

松下電器産業株式会社

AV&セキュリティビジネスユニット

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号

電話 フリーダイヤル 0120-878-410